

## 初春どり重量野菜の端境期に対応した品質安定化技術

### 【背景と目的】

初春どり重量野菜3品目（ダイコン、キャベツ、ハクサイ）は、低温やその後の急激な気温上昇により品質が低下するため、良品生産は困難である。そこで、低温等による障害の少ない品種の選定を行い、省力性に配慮しながら、被覆資材などを利用して障害を抑制するための栽培管理技術を開発する。

### 【研究概要】

ダイコン、キャベツ、ハクサイで、低温耐性、抽苔や裂球のしにくさ、食味の良否等も含めて総合的に判断し、有望な品種を選定した。また、播種や定植時期、マルチの植穴間隔を比較・検討した。併せて、被覆の資材の組み合わせや方法（浮き掛け・トンネル被覆）、結束処理等の方法による障害や内部腐敗の軽減効果を明らかにした。

- (1) 初春どりに適した品種は長形ダイコンが「YR春の浦」、短形ダイコンが「味短歌」であり、透明マルチ9227（長形）・9220（短形）を用いるとよい。また、ダイコンの内部障害は「ユーラックカンキ2号」と「寒冷紗」の二重被覆で軽減できる。
- (2) キャベツの結球確認時点から地表50cmに寒冷紗を浮き掛けすると、比較的低温障害を受けやすい「彩音」で結球障害面積が有意に低減することから、障害抑制の1つの手法となる。
- (3) 低温障害を受けにくいキャベツ品種は「ひなの」であり、9月中旬以前の定植が望ましい。9月上旬に定植すると結球重が重くなる。
- (4) ハクサイ品種「おもむき」は可販重が大きく、低温による表面の障害や内部腐敗も少ない傾向にあり、初春どりに有望である。また、抽苔や不結球を回避するためには、定植を9月下旬～10月上旬にするとよい。
- (5) ハクサイは寒冷紗浮き掛け被覆すると、表面葉温が高まり、障害度や内部腐敗が低下する傾向となる。